

おばこ稲作情報



2021年6月
No. 7

JA秋田おばこ

活着肥えで

初期生育加速へ

今年の田植え期間は最低気温が高かったものの最高気温が低く日較差が小さい日が多かったです。加えて日照時間も少なく、田植えをして一週間ほど過ぎたのに元気が出てきていない、分けつが少ない、色が淡いという苗も少なくありません。

田植え後、素早く活着をし、初期生育を旺盛にすることが豊作への第一歩です。苗の様子に変化が見られない、いまいち物足りないという場合は「活着肥」で、苗の馬力を上げてやりましょう。

活着肥は、速効性があり、あと残りにくい「硫安」がオススメ。今年の活着は悪いわけではないので、少し馬力をあげることが目的にチツソで1kg/10a程度の追肥とします。「オール14」等、リン酸が入っている肥料を散布する場合は、「カナ（表層剥離）」が出やすいので必ず除草剤散布後に追肥します。



硫安

散布目安: 5kg/10a (N: 1kg)

散布時期: 活着後1週間以内

※チツソ成分で1kgを目安に活着肥

ワンポイントアドバイス

浅水管理で寒暖差大きくし分けつ促進!!

農協の硫安は

大粒でよく飛ぶぞ〜

オリゼメート粒剤

6/12~18頃散布
2~3kg/10a

補植用余り苗早期処分

濃葉色、重なり箇所
要注意

WCS等いもち防除を!

今年の発生量が多かったことから、今年もいもち病の発生が予想されています。いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がり、食い止めるのが難しい病気です。昨年の発生地域を中心に警戒を怠らずに徹底防除をしてください。

いもち病対策
してますか?